

# クリエイティブな支援

家庭やグループホームでの生活面での支援と  
あたりまえの生活が送れるよう奮闘しています。



ホームでの支援の様子



重度訪問介護、家事・  
身体介護をおこなっています。

## ヘルパー奈良さんにインタビュー

### 家事援助ではどんなことを？

食事作りや部屋のそうじなど家事全般をやっています。2人で献立を考えて買物にも行きます。洗濯や調理なども自分でできることは自分でやっていただくようにしています。

私が、せきをしたりすると「だいじょうぶ？」と心配して声をかけてくれたり、仕事をしているのに仲間同士という感じがしています。

### ヘルパーの仕事のやりがいは？

食事をいっしょに作るのが楽しいです。できあがった料理の味がうすいか辛いかなど心配ですが、「おいしい」と言っていただけたうれしく感じます。

### 休日はどんな風に？

中学生から小学校高学年の中学生（3人の男の子）と買物によく出かけます。つい、いろいろと買ってあげてしまいます。旅行や山登りなどにも出かけます。



ネットワークみなどでは、屋外の支援と屋内の支援があります。

屋外の支援では、外出時の支援で移動支援、行動支援、重度訪問介護というサービスがあります。支援の内容は「余暇支援」と「不可欠の外出」があります。

「余暇支援」では、カラオケ、ボウリング、水族館、科学館、映画館に行ったり、のんびり過ごしたり、天気のよい日は公園に行って散歩をしています。またショッピングモールに買い物に行くこともあります。様々な休日の過ごし方を皆さん楽しみ、リフレッシュしています。

「不可欠の外出」とは、主に事業所への通所や病院への通院付き添いや日常生活上不可欠なもの（食材や下着などの衣料品）の買い物です。特に通院の付き添い支援が多く、歯医者や内科に定期的な診療から急病時のための支援もあり、利用者の命を守るつえで重要な役割を担っています。

家族や日中事業所、様々な機関と情報を共有し、連携を密にしていくことが大切です。

屋内の支援では、「身体介護」と「家事援助」があります。

身体介護は、グループホームにて入浴介助と食事介助を行っています。お風呂で一日の疲れをいやし、楽しく食事ができるようゴミ箱、ゴーケーションをとつて支援しています。

家事援助は、ヘルパーが利用者のご自宅に訪問して掃除や洗濯、食事作りをします。家事援助を利用している多くの方が一人暮らしです。一人でも安心して生活できるよう、ヘルパーのみなさんが利用者に寄り添って支援をおこなっています。

# 事業所紹介⑧ ネットワー



## ヘルパー小金井さんにインタビュー

### 移動支援ではどんなことを？

平日はご自宅やホームから作業所へ、または帰りにご自宅への送迎支援をしています。休日は病院への通院の付き添いや買物、動物園、映画、体操教室などにいっしょにお出かけ（支援）しています。

### 心に残るエピソードをおしえて？

「るろうに剣心」の映画を観に行った時に、あまりに血がどばっと噴き出したり体が燃えたりとかなりリショッキングな映像で、エンディングが終わってからも2人とも、しばらく呆然として、お互い顔を見合せた時に顔が同じように呆然としていて逆に笑えてきたこと。

観覧車に乗った時には、本当は死ぬほど怖くて、降りてからも足がガクガクしていたこと。

### ヘルパーの仕事のやりがいは？

私自身が、普段行けないところへいっしょにお出かけができる楽しみがあること。利用者さんの笑顔やまっすぐな心から、逆に笑顔と力がもらえるところ。

「障害のある人たちのくらしのサポーター」として外出時のガイドヘルパーとしての応援など、みんなが

移動支援では事業所への送り迎えや  
通院の支援、カラオケ、映画鑑賞、  
買物など利用者の希望にそつた  
いろいろな支援をおこなっています。



私たちと  
出かけてくれる  
ヘルパーさんを  
**大募集中です**  
ネットワークみなと  
052(383)2280

## 暮らしを支えていくために

ひとり暮らしをする人たちへの家事援助や作業所に通う、休日に買物などに出かける際のガイドヘルプは、障害のある人たちのあたりまえの暮らしを支えるために欠かせないものです。

しかし、昨春からの新型コロナ感染症の猛威の中で、家事援助は対策をとった上で継続してきましたが、外出（余暇）支援については感染の拡大時期に感染経路の不明なケースや無症状者の増加など、外出時の感染リスクを考慮して活動を見合わせてきました。特に、休日に大好きな電車にたっぷり乗ることや趣味のお店に岡かけて、心ゆくまで楽しんでくることが生活のリズムとなっている人たちにとっては、とてもつらい日々となってしまい、心苦しく思っています。

一方で支え手となるヘルパーさんもとても厳しい状況にあります。もともとニーズが朝と夕方の短時間に集中するため、多くの方が登録型の契約になっています。しかも不安定な勤務に見合うだけの賃金の保障となっていない現実があります。それでも長く続けていただいているみなさんは、ほんとうに感謝いたします。

できるかぎりの要望にこたえようと、ネットワークみなとでもヘルパーさんの募集をつづけていますが、思うように反応がありません。ヘルパーさんの求人倍率は、全産業平均の15倍にものぼるという報道も目にしました。

全国的にも、それほどの人手不足になるのは、仕事の価値に比べて身分保障が低すぎることに尽きると思います。援助を必要とする人たちに必要な支援が届くよう、制度の改善をもとめていくこともますます大切になります。

（ネットワークみなと 所長 石川修）

# わーくす昭和橋 開設のころ

わーくす昭和橋は2012年度から名古屋市より運営を引き継ぎ、法人の4ヶ所目の日中作業所としてスタートしました。開設当時の様子をふりかえってもらいました。

他の利用者の方も同様で、日々トーブルが続き、大声が飛び交う騒然とした時間を過ごすことになりました。また、仲間の皆さん同様、「家族の方も「名古屋市運営の作業所を利用している」とことで、「生活も含めて安心だと思っていた矢先に、突然の「民間委託」の話が起り、反対運動が起きたとも聞いています。当然のことだと思います。

2011年9月～2012年3月にかけての「昭和橋作業所家族会」に参加し、直接「家族の方の「不安」と「期待」の入り混じった複雑な思いを聞き、「みんな福祉社会になつてよかつたと思つてもらえる場所にしなければ」と痛切に思いました。

一方、2012年4月引継ぎ当初の職員体制は、石川前所長、田中を除き、他はほぼ1年目の職員ばかりの体制の中、日々様々なことが起つる現場で、みんなで話をし、この時間をすごしました。2012年は「引継ぎ」だけではなく、2013年4月開所のために「4階建ての建物を建て、40名定員の多機能型事業所」の準備も同時並行となり、仮設への引越し。2013年3月末にあたらしい「わーくす昭和橋」への引越しを経験しました。

今思いかえすと、よく乗り切ることができたものだと思います。

**■ 開設当初を振り返り**

37年にわたる歴史のある名古屋市立昭和橋作業所（授産施設）を、2012年4月にみんな福祉会に運営が委託され、「わーくす昭和橋」と改めスタートしました。早いもので2011年9月より前石川所長が引継ぎに入つたところを含めると「9年」が過ぎました。

2012年4月にみんな福祉会に完全委託され早々に、

ある仲間が「玄関の防犯ガラスをけつて割つてしまつ」とが起つりました。修理をお願いした業者さんも「こんなに割れるものではありません」と驚いていました。急に知つている職員がいなくなり、知らない職員（引継ぎ期間はありましたか）ばかりとなり「不安」が爆発してしまつたのだろうと思います。知的障害の方は「変化」が苦手で、同じ事業所にいながら「職員全部がかわる経験」は、ほほない経験と言えます。

が起つたことを得ず、これから、ますます強く出るといが危惧されます。多くの運動を組織していく必要があります。

**■ 誇りを持って働き、そして人生を味わう  
「わーくす昭和橋といえば肉まん」**

わーくす昭和橋の肉まん事業は、障害のある方も、合理的配慮の具体化をし続けることで社会参加していくことを大切にしながら進めてきました。

何より「自分たちだけで完結して行う」ことからの脱却を心掛け、私たちだけでやせぬ」とには限りがあることを受け入れ、「どこに向かっていくのか」を視野に入れ、その方向に向かうためには、どうすればいいかの試行錯誤の連続をしてきました。

その結果、おかげさまで「名古屋コーチンカレーまん」が「ベストお取り寄せ大賞2019のおかず・総菜・麺類部門 金賞」を受賞し、多くのメディアに取り上げていただき、仲間たちも自分たちの作った肉まんがテレビなどで紹介され、仕事に誇りを持ち始めています。

これからも、わーくす

昭和橋は①利用者とともに

により多くの方とつなが

る②利用者とともに援

助を得ながら本物の商品

をめざす③わーくす昭

和橋がワントームとなり

進める④挑戦をし続け

る⑤人生を味わうこ

とを大切に歩みを紡いで

いきます。（わーくす



昭和橋所長 田中弘樹